

学位プログラム DP レビュー

2024 年度 公共社会学科

1. 現状の説明

①授業実施評価レポート

成績評価アンケートは、全体的に良好な結果であり、本学科の DP に沿った授業が実施されていると評価できる。教務・共通教育部会からは、全体的に良好な回答結果であることと、人数はごく少数だが他学年に比べ 2 年生で「透明性」「客観性」「妥当性」「公平性」が不足している科目があったという割合が 1 割弱確認されたという指摘があった。成績分布については、科目全体で一定のバランスが取れており、成績に「不可」が極端に多い科目もなかった。教務・共通教育部会からは、受講者数 10 名を超える科目において成績 S が受講者の 3 分の 2 を超えていた 3 科目と、受講者数が 5 名未満であった 5 科目について、指摘があり、検討を求められた。これらへの対応方策については後述のとおりである。

②DP アンケート

DP アンケートの結果は、5 点満点での平均値が全ての項目で 4 以上であった。全 13 項目の平均値も 4.3 であることから、4 年間の学習成果について学生から一定以上の評価が得られており、学科 DP に沿った教育が行われていると評価できる。教務・共通教育部会からは、全体的に良好な結果が得られていること、地域課題や社会問題、異なる文化や価値観への理解、人間と社会に関連する幅広い諸科学の知識に関する項目が高い値となっている点が評価された。一方で、「地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった」の項目（4.1）など、表現、主体性、協働性に関する項目で若干ではあるが、他項目よりは相対的に低い値であると指摘があった。この点への対応方策は後述のとおりである。

③進路・資格試験・留年・退学状況

卒業生の進路では、47 名の卒業生のうちの 44 名の就職希望者について就職率 100.0%となっている。就職先の内訳は「民間企業・団体等」が 28 名（63.6%）、「官公庁等」が 11 名（25.0%）、「教員」が 5 名（11.4%）であった。このほか大学院・専門学校等の進学者が 1 名いる。資格について、公共社会学科では中学校教諭一種免許状（社会）取得者が 7 名、高等学校教諭一種免許状（公民）取得者は 7 名、社会調査士資格取得者は 15 名、上級情報処理士資格取得者は 33 名であった。昨年度に続き、近年の傾向として「官公庁等」の就職者比率が高く、今年度については「教員」が多いのが特徴的であった。この点は、民間企業への就職とあわせ、「現代社会の多様な課題に対応するため、地域社

会と国際共生に焦点をあて、公共性に根ざした社会問題解決能力に秀でた人材を育成する」という学科の教育研究上の目的と一致していると考えられる。

留年生は1名と昨年度4名からは減少した。退学者は4年次（留年者含む）2名と昨年度1名から増えたが、過去4年間から大きな変化はなかった。進路生活部会からは、学科ではなく大学全体に対して、不本意な退学を避けるための支援を行っていく必要性が指摘されている。この点への対応方策については後述する。

2. 2023 年度対応プランの結果

①の成績評価については昨年度に引き続き、1年生に対しオリエンテーションや授業の中で、大学での成績評価のあり方や目的に関して丁寧に説明を行った。また、コース会議で成績分布及び受講者数について情報共有と点検を行い、コース担当教員を中心に各自のシラバスや成績評価方針の点検を行った。専門科目の履修が増える2年生を中心に各科目やオリエンテーションにて、大学の成績評価の方法や目的についての説明を行った。結果、前述のように成績評価アンケートで良好な回答結果を得られた。成績分布についてはS評価が多い科目について科目担当者に確認をとり問題のないことを確認するなどした。受講者数の少ない科目については、設定可能な範囲で時間割上の配置を工夫し、オリエンテーションなどで科目の内容紹介と履修奨励を行った。それにより当該科目については一定の改善がみられたものの、他方で当該年度は当該科目に限らず非常勤講師による担当講義の受講者数が少ない傾向があるという課題が確認できた。

②のDPアンケートについては、全体的に良好な評価を得ていたが、地域課題や社会問題への背景や対応策に関し説明することや主体的に取り組むことには課題もみられた。そこで、地域課題や社会問題に関する教育について、教員間で情報共有を図り、各科目で適宜改善に向けた取組を進めた。結果、全体的に高い評価を得ることができた一方、「地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった」をはじめ、表現、主体性、協働性に関する項目では改善の余地がある結果となった。

③の卒業生の進路については、全学的な就職支援の整備とあわせ、学科においても就職支援に関する複数のプログラムを継続して運営してきており、一定の成果が現れていると言えよう。留年、退学の状況については、GPAが低い学生に対する面談や必修科目の授業参加が滞っている学生への連絡を継続して行い、不本意な留年、退学を避けるための支援を行ってきた。

3. 今回の課題と対応プラン

①のうち、成績評価では、全体的に良好な結果が得られていることから、引き続きコースで全体的

な成績分布や受講者数の情報共有と点検を継続して行う。また、コース担当教員を中心に各自のシラバスや成績評価方針の点検を継続して行う。また、専門科目の履修が増える2年生を中心に各科目やオリエンテーションにて、大学の成績評価の方法や目的についての説明を入念に行う。受講者数が少ない科目については非常勤講師による担当講義の受講者数が少ない傾向があるという課題が確認できたため、履修登録期間に各学年に適切な履修登録を促すとともに、非常勤講師による担当講義の紹介をオリエンテーションとメールで行い、履修を勧める。また、今後の学部カリキュラムの見直しを行う過程で、専門教育科目の改廃についても併せて検討する。

②の DP アンケートでは、全体的に良好な結果が得られており、DP にそった教育を継続するとともに、地域課題や社会問題に主体的に取り組む能力や意欲を高める教育を行うため、教員間で情報共有を図り、個々の科目で改善に向けた取組を進める。具体的には地域課題や社会問題に対する対応策の事例紹介やそれらに関し学生が考察、説明や活動を行う機会を増やすことなどが考えられる。

③の進路、資格試験については、学科の DP に沿った成果が現れていると考えられる。全学的な就職支援の整備とあわせ、学科においても就職支援に関する複数のプログラムを引き続き運営する。留年、退学の状況については、GPA が低い学生に対する面談や必修科目の授業参加が滞っている学生への連絡を継続して行い、不本意な留年、退学を避けるための支援を行っていく。

4. DP 達成状況のまとめ

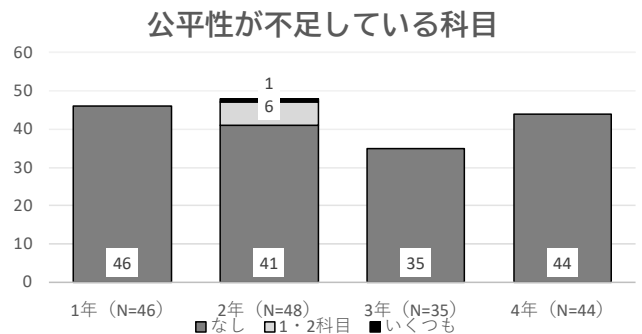
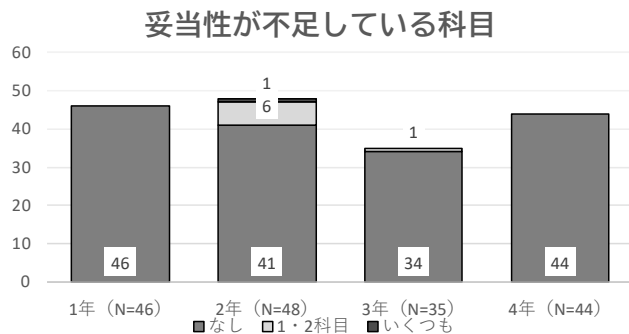
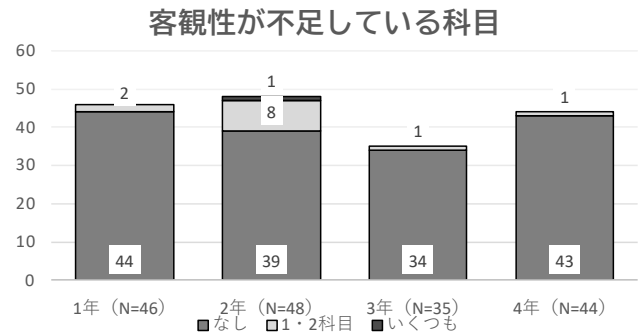
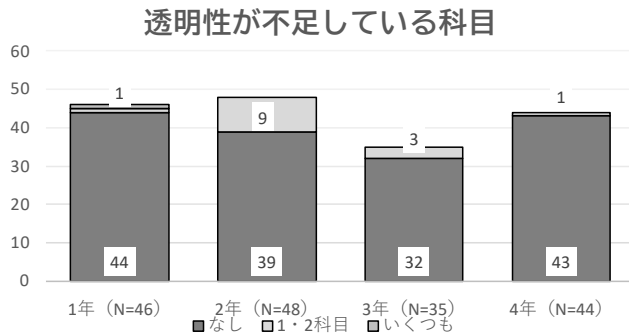
以上、本学位について、成績評価、学生による評価、進路の状況から判断すると、DP 全体について一定以上の達成状況にあると考えられる。「表現、主体性、協働性」の項目においては改善点も見出されるため、この項目についての教育の強化も視野に入れながら、学位プログラムの運営に継続して努める。

添付資料

- ・ 成績評価アンケート結果報告
- ・ 受講者数及び成績結果状況報告
- ・ DP アンケート
- ・ カリキュラムツリー
- ・ カリキュラムマップ

地域社会コース成績評価アンケート結果報告

1.成績評価アンケートの結果



2.結果について

1. 全学年について、成績評価に関する4項目それぞれの「なし」が占める割合は、透明性＝91.3%、客観性＝92.5%、妥当性＝95.4%、公平性＝96.0%であり、概ね良好な結果です。
2. 全体的には良好な回答傾向と評価できますが、2年生においては4項目それぞれについて「一つ二つあった」という回答が、1割弱確認され、また他学年においても「透明性」「客観性」「妥当性」の「一つ二つあった」という回答が若干確認されます。ここから、専門科目の履修が増える2年生を中心に、各科目の中では成績評価の方法や目的について、オリエンテーションなどでは大学での成績評価の方法や目的について、より丁寧に説明を行うなどの工夫が必要になると考えられます。

公共社会学科専門教育科目、教科及び教職に関する科目（高校公民・情報、中学社会）
受講者数及び成績結果状況報告

2023 年度の公共社会学科の専門教育科目、関連科目、教科及び教職に関する科目（高校公民・情報、中学社会）の各科目の受講者数及び成績結果をお知らせします。

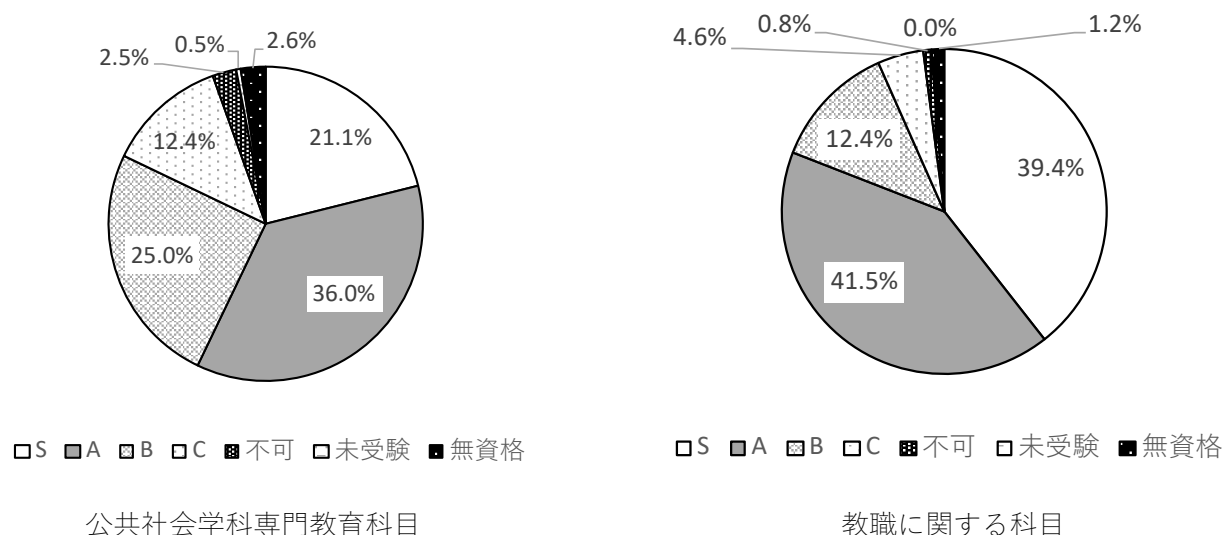
結果について

1. 受講者数が 5 名未満の開講科目は、「集合行動論」、「コミュニティ論」、「公共社会学特講 A」、「公共社会学特講 B」、「文化人類学 B」であり、「地域社会分析法 B」は履修者が 0 人でした。いずれも 2023 年度は非常勤講師による担当講義であったため、学生に講義を紹介し受講を勧めるなどの対策が考えられます。また、科目の必要性や妥当性についても確認してください。
2. 成績に「不可」が多い科目はありませんでした。
3. 受講者数 10 名を超える科目において、成績 S が受講者の 3 分の 2 を超えていた科目は、「公民科教育法 I」「公民科教育法 II」「社会科教育法 I」でした。評価方法や成績評価方針について確認をお願いします。

※ 本コメントは、問題点を指摘するものではありません。問題がないかを確認し、問題がない場合はこれで妥当であることを説明できるようにしてください。また強化あるいは変更したほうが良い点がある場合は、具体的な対策を立てられてください。

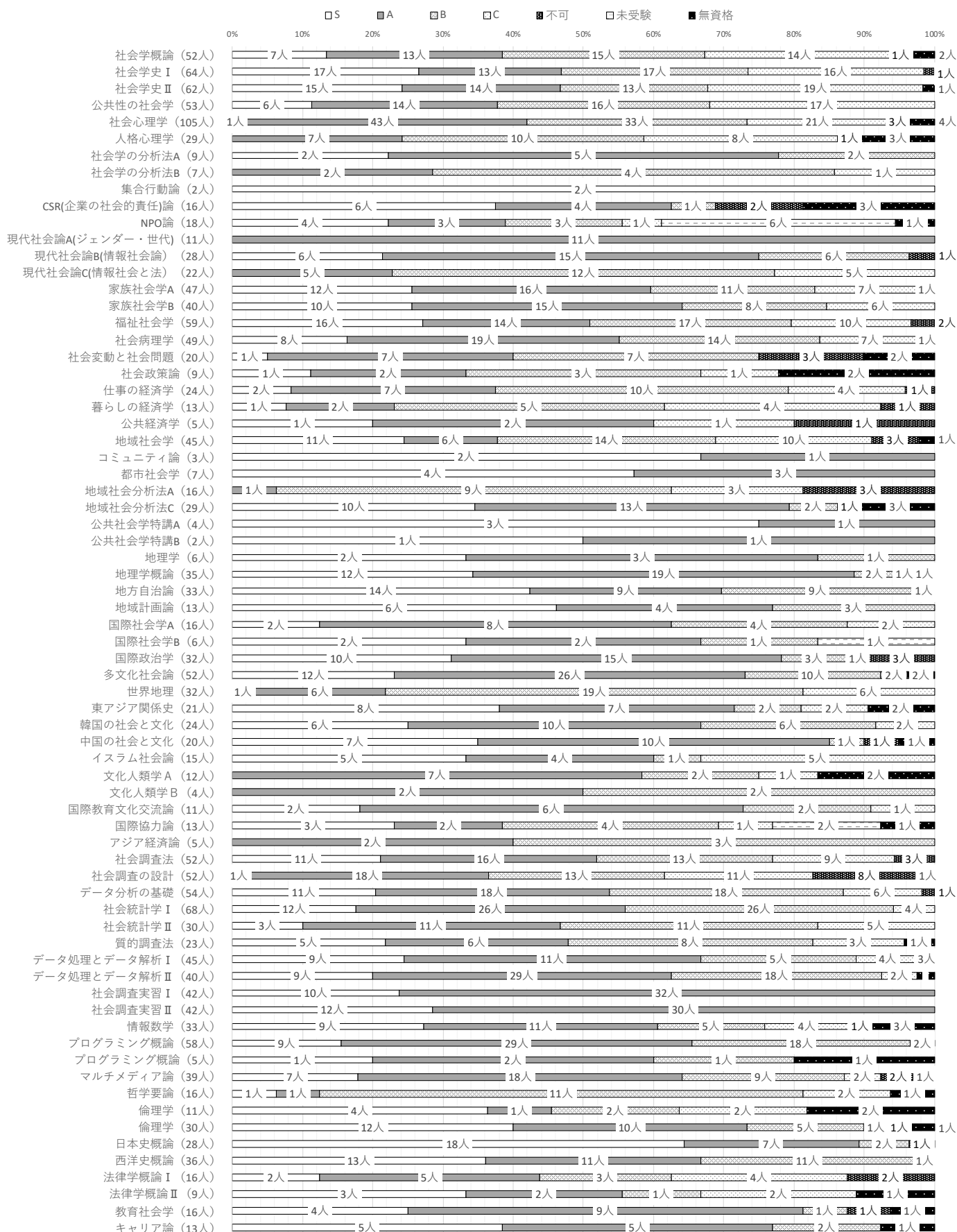
（添付資料）

（1）学科別成績分布・教職に関する科目成績分布



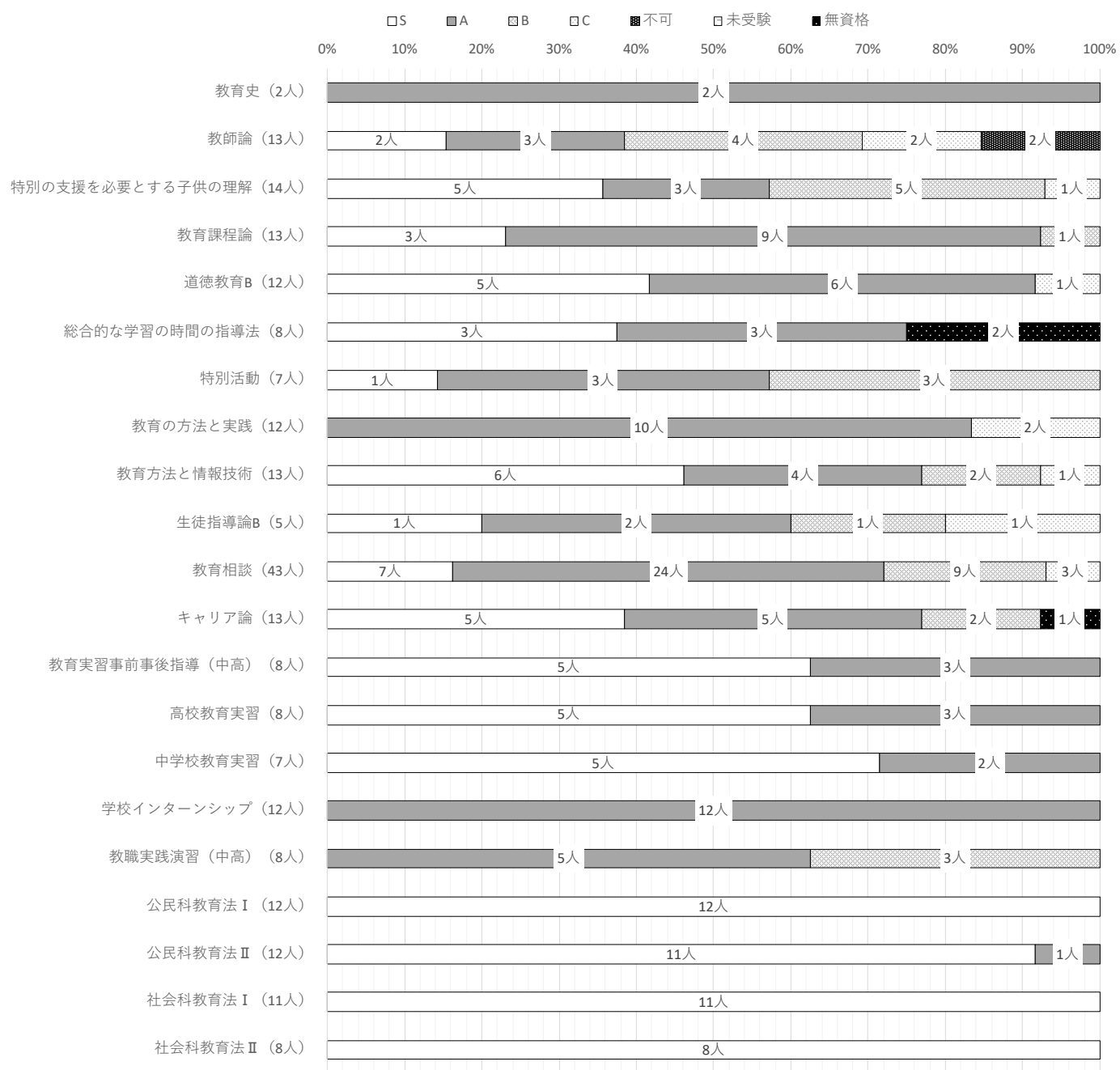
(2) 各授業の成績分布

公共社会学科専門教育科目の成績分布



(3) 各授業の成績分布（教職に関する科目（高等学校教諭一種免許状（公民、情報）、中学校教諭一種免許状（社会））

教職に関する科目の成績分布



公共社会学科ディプロマ・ポリシーアンケート結果報告

1.ディプロマ・ポリシーアンケートの結果

質問項目	平均値
1. 社会学を中心とする社会科学の専門知識が身についた。	4.3
2. 異なる文化や価値観を、客観的に理解できるようになった。	4.6
3. 地域課題や社会問題を、その歴史的背景や現状の多様性をふまえて理解できるようになった。	4.5
4. 人間と社会に関連する幅広い諸科学の知識が身についた。	4.4
5. 物事について、根拠をふまえて意見する力がついた。	4.3
6. 物事について、公共性の観点をふまえ考えることができるようになった。	4.5
7. 自分の考え・気持ちを、他者に伝わるよう適切に説明できるようになった。	4.2
8. 地域課題や社会問題の背景を論理的に説明し、それへの対応策を説明できるようになった。	4.1
9. 目標に向けて自分で考え、主体的に活動できるようになった。	4.2
10. 様々な地域課題や社会問題、または異なる文化・価値観に対して関心をもつようになった。	4.5
11. 地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった。	4.2
12. 資料やデータを収集する技法が身についた。	4.3
13. 調査研究を行う際に、適切な方法により分析することができるようになった。	4.3
全項目平均値	4.3

自由回答

1. 高校時にはもてていなかった論理的思考や社会を見る目を身に着けることができ、大変満足している。
2. パソコンの扱い方（データ処理）などがよくできるようになった。
3. 問題や課題の背景や原因まで深く、専門的に学ぶことができる点

(計 3 件)

2.結果について

1. 全項目で平均値が 4 を超えており、13 項目の平均値も 4.3 であることから、学生からは 4 年間の学修の成果について一定の評価が得られているものと考えられます。
2. 知識の修得に関する項目 2、3、4、思考や判断に関する項目 6 では相対的に高い値を示しています。また、社会事象や多様性への態度に関する項目 10 も相対的に高い値を示しています。
3. 一方で、表現や関する項目 7、8、主体性に関する項目 9、協働性に関する項目 11 では相対的に低い値となっています。
4. 前項の改善に際しては、学生がさまざまな現場と関わり合いを持つ機会を増やすことなどが対応策として考えられます。例えば、それぞれの調査実習や演習のなかで、データ収集・分析能力を涵養するとともに、得られた結果をもとに課題解決に向けた考察・活動の機会をつくることなどが考えられます。

公共社会学科専門教育科目 カリキュラムマップ

新カリキュラム版

授業科目の区分と科目名		単位		授業 方法	開講 年次	DP1	DP2	DP3	DP4	備考
		必修	選択							
基 幹 科 目	社会学概論	2		講義	1	○		○		
	社会学史Ⅰ	2		講義	2	○				
	社会学史Ⅱ	2		講義	2	○				
	公共性の社会学	2		講義	1	○		○		
	社会学の分析法A		2	講義	2	○		○		
	社会学の分析法B		2	講義	3	○		○		
	集合行動論		2	講義	3	○		○		
	CSR（企業の社会的責任）論		2	講義	3	○		○		
	NPO論		2	講義	3	○		○	○	
	社会心理学		2	講義	1					人間形成学科開設科目
	人格心理学		2	講義	1					人間形成学科開設科目
	公共社会学研究Ⅰ	1		演習	3	○	○	○	○	
	公共社会学研究Ⅱ	1		演習	3	○	○	○	○	
	卒業論文	6		演習	4	○	○	○	○	
現 代 社 会 課 題	現代社会論A（ジェンダー・世代）		2	講義	2	○				
	現代社会論B（情報社会論）		2	講義	2	○		○		
	現代社会論C（情報社会と法）		2	講義	2	○		○		
	家族社会学A		2	講義	2	○		○		
	家族社会学B		2	講義	2	○		○		
	福祉社会学		2	講義	3	○		○		
	社会病理学		2	講義	2	○		○		
	社会変動と社会問題		2	講義	3	○		○		
	社会政策論		2	講義	1	○		○		
	公共経済学		2	講義	3	○	○	○	○	
	仕事の経済学		2	講義	2	○	○	○		
	暮らしの経済学		2	講義	2	○	○	○		
地 域 社 会 ネ ッ ト ワ ー ク	地域社会学		2	講義	1	○		○		
	環境と災害の社会学		2	講義	3	○		○		
	コミュニティ論		2	講義	2	○		○	○	
	都市社会学		2	講義	2		○	○	○	
	地域社会分析法A		2	講義	3	○	○	○	○	
	地域社会分析法B		2	講義	3	○		○		
	地域社会分析法C		2	講義	3		○	○		
	公共社会学特講A		2	講義	3		○	○	○	
	公共社会学特講B		2	講義	3	○		○		
	地理学		2	講義	1	○	○	○		
	地理学概論		2	講義	2	○	○	○		
	地方自治論		2	講義	2	○	○	○		
ア ジ ア 国 際 共 生	地域計画論		2	講義	3	○		○		
	国際社会学A		2	講義	2	○		○		
	国際社会学B		2	講義	2	○		○		
	国際政治学		2	講義	1	○		○	○	
	多文化社会論		2	講義	2	○		○	○	
	世界地理		2	講義	1	○	○	○	○	
	東アジア関係史		2	講義	2	○		○	○	
	韓国の社会と文化		2	講義	1	○	○	○	○	
	中国の社会と文化		2	講義	1	○		○	○	
	イスラム社会論		2	講義	2	○		○		
	文化人類学A		2	講義	3	○		○		
	文化人類学B		2	講義	3	○	○	○		
	国際教育文化交流論		2	講義	3	○		○		
	国際協力論		2	講義	1	○		○	○	
	アジア経済論		2	講義	3	○		○	○	

社会調査・情報処理	社会調査法	2		講義	1		○	○		
	データ分析の基礎	2		講義	1		○	○		
	プログラミング概論	2		講義	2	○	○	○		
	社会統計学Ⅰ	2		講義	2		○	○		
	社会統計学Ⅱ		2	講義	2		○	○		
	社会調査の設計		2	講義	2		○			
	質的調査法		2	講義	2		○	○		
	データ処理とデータ解析Ⅰ		1	演習	3	○	○	○		
	データ処理とデータ解析Ⅱ		1	演習	3	○	○	○		
	情報ネットワーク演習		1	演習	2					総合人間社会コース科目、2023年度から開設
	マルチメディア論		2	講義	2					総合人間社会コース科目、2023年度から開設
	地理情報システム論		2	講義	3					総合人間社会コース科目、2024年度から開設
	社会調査実習Ⅰ		2	実習	2	○		○	○	
	社会調査実習Ⅱ		2	実習	2	○		○	○	
	情報数学		2	講義	2	○	○	○		
	哲学要論		2	講義	3	○		○		
	倫理学		2	講義	3	○		○		
	日本史概論		2	講義	2	○		○	○	
	西洋史概論		2	講義	2	○		○		
関連科目	法律学概論Ⅰ		2	講義	3	○		○		
	法律学概論Ⅱ		2	講義	3	○		○		
	教育社会学		2	講義	3		○	○		
	社会福祉学概論Ⅰ		2	講義	1					社会福祉学科開設科目
	地域福祉論Ⅰ		2	講義	2					社会福祉学科開設科目
	地域福祉論Ⅱ		2	講義	3					社会福祉学科開設科目
	教育学概論B		2	講義	1	○	○	○	○	
	生涯教育論		2	講義	2					人間形成学科開設科目
	社会教育論		2	講義	2					人間形成学科開設科目
	対人心理学		2	講義	1					人間形成学科開設科目
	Webデザイン演習		1	演習	2					総合人間社会コース科目
	情報ネットワーク論		2	講義	2					総合人間社会コース科目
	データベース論		2	講義	2					総合人間社会コース科目
	プログラミング演習		2	演習	3					総合人間社会コース科目
	情報検索システム論		2	講義	3					総合人間社会コース科目
	問題解決演習		1	演習	2					総合人間社会コース科目
	人的資源管理論		2	講義	2					総合人間社会コース科目
	キャリア論		2	講義	3					総合人間社会コース科目
	組織マネジメント		2	講義	3					総合人間社会コース科目
	ビジネス倫理		2	講義	3					総合人間社会コース科目
	個人情報法制		2	講義	3					総合人間社会コース科目

色付きは他学科・他コース科目

領域	区分1	区分2	1年		2年		3年		4年	
基幹科目	社会学の基礎・公共性の考え方を学ぶ	社会学(必修コア)	○社会学概論		○社会学史Ⅰ	○社会学史Ⅱ				
			○社会学A(教養科目)	○社会学B(教養科目)						
		公共性・組織・社会心理	○公共性の社会学 人格心理学	社会心理学 (対人心理学)	社会学の分析法A		☆NPO論 CSR(企業の社会的責任)論	社会学の分析法B 集合行動論		
	公共性の観点から課題を調査・分析し、報告する技法を学ぶ	○(教養演習)			(社会調査実習Ⅰ) ★家族社会学A	(社会調査実習Ⅱ) 家族社会学B	○公共社会学研究Ⅰ (地域社会分析法A)	○公共社会学研究Ⅱ (地域社会分析法B)	○卒業論文	
現代社会課題	社会現象を多角的に捉え分析する	家族・ジェンダー			現代社会学A(ジェンダー、世代)		ジェンダー論(教養科目)			
		福祉・社会問題			★社会病理学	(社会学の分析法A)	☆福祉社会学	☆社会変動と社会問題		
		情報社会			現代社会学B(情報社会学)	現代社会学C(情報社会と法)				
		経済・社会政策	社会政策論	経済学(教養科目)	★暮らしの経済学	仕事の経済学	(アジア経済論)	公共経済学		
地域社会ネットワーク	地域を社会的に捉え分析する	地域・都市	★地域社会学		都市社会学	コミュニティ論	☆地域社会分析法A	環境と災害の社会学		
	地域を行政学・地理学的に捉え分析する	特講					公共社会学特講A	公共社会学特講B		
		自治・住民参加			★地方自治論		地域社会分析法B	地域計画論		
		地理学	地理学	(世界地理)	★地理学概論		☆地域社会分析法C (地理情報システム論)			
アジア国際共生	アジアを軸にグローバルな視点で社会の現状と課題を考える	社会と開発	国際協力論		★国際社会学A	国際社会学B				
		政治・経済	★国際政治学	政治学(教養科目)			☆アジア経済論			
		文化と歴史	韓国の社会と文化	中国の社会と文化	★多文化社会学論	東アジア関係史	国際教育文化交流論			
		人類学・宗教・地誌	世界地理		イスラム社会学論	宗教学(教養科目)	文化人類学A	文化人類学B		
社会調査・情報処理	社会調査・情報処理の基礎と方法を学ぶ (社会調査士・上級情報処理士)	社会調査総論	○社会調査法		★社会調査の設計					
		統計・データ解析	○データ分析の基礎	統計学(教養科目)	○社会統計学Ⅰ	社会統計学Ⅱ	☆データ処理とデータ解析Ⅰ (文化人類学B)	☆データ処理とデータ解析Ⅱ		
		質的調査			質的調査法					
		社会調査実習			社会調査実習Ⅰ	社会調査実習Ⅱ				
		情報処理	数学概論(教養科目)	情報科学(教養科目)	○プログラミング概論	情報ネットワーク演習	地理情報システム論			
					情報数学	マルチメディア論				
関連科目	いろいろな見方・考え方を学ぶ	歴史・哲学・倫理	哲学(教養科目)		日本史概論	西洋史概論 / (東アジア関係史)	倫理学	哲学要論		
		教育・心理	教育学概論B	対人心理学	社会教育論	生涯教育論	教育社会学			
		法律	法学(教養科目)	憲法(教養科目)	(現代社会学C(情報社会と法))		法律学概論Ⅰ	法律学概論Ⅱ		
		社会福祉	社会福祉学概論Ⅰ	(社会政策論)	地域福祉論Ⅰ		地域福祉論Ⅱ			
	データサイエンス・プログラム			Webデザイン演習	情報ネットワーク論	プログラミング演習	情報検索システム論			
				データベース論		(個人情報法制)				
	キャリアマネジメント・プログラム			問題解決演習		キャリア論	組織マネジメント			
				人的資源管理論		ビジネス倫理	個人情報法制			

DP1
現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。
社会学を中心とする社会科学の専門知識をもとに、社会的事象の歴史的背景や多元性、異なる文化や価値観を理解できる。

DP2
現代において求められる汎用的技能を身につけている。
先行研究や各種の資料を適切に収集する技能、社会的現象を適切に観察、調査、分析する技能を身につけている。

DP3
現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。
人間・社会の諸問題について、根拠に基づいて公共性の観点から論理的に整理することができる。
人間・社会の諸問題について、自らの考えを適切に説明することができる。



教職課程	教職に必要な知識・方法を学ぶ	教育学概論B		教育史		教育課程論	教育の方法と実践		
		教師論		特別の実践を必要とする子供の理解		(教育社会学)	教育方法と情報技術		
				総合的な学習の時間と指導法		遠徳教育B	キャリア論(進路指導)		
				特別活動		生徒指導論B	教育相談		
						情報と職業			
		発達心理学Ⅰ-A		教育心理学概論		社会科教育法Ⅰ	社会科教育法Ⅱ		
						公民科教育法Ⅰ	公民科教育法Ⅱ		
						情報科教育法Ⅰ	情報科教育法Ⅱ		
						教育実習事前事後指導(中高)		教職実践演習(中高)	
					学校インターンシップ				高校教育実習
							中学校教育実習		

DP4	
異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。	
人間・社会の諸問題への深い関心のもと、問題解決に向け、主体的に学習を続ける力を身につけている。	
人間・社会の諸問題について多様性を尊重し、多様な人々と協働することができる。	

基礎教育科目	学びの基礎をつくる	教養科目(人文科学・社会科学・自然科学・複合領域)、基礎科目(外国語(必須・選択)・情報処理・健康科学・基礎ゼミ・発展ゼミ)
--------	-----------	--